

第41章 (H12. 7. 23)

送信者: 高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 e-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

森は海の恋人

清流通信「四万十川物語」の読者のみなさんこんにちは。

今回は、平成12年7月25日に行われる「四万十版「森は海の恋人」意見交換会」についてお伝えしようと思います。

「森は海の恋人」、これは宮城県の気仙沼湾で牡蠣の養殖に従事され、先に5人目の四万十大使になっていただいた「牡蠣の森を慕う会」の代表、畠山重篤さんが1994年に出版された本の題名で、畠山さんのグループが山に木を植え始めたときに、歌人の熊谷龍子さんが森と海の関係を大変魅力的に表現した言葉です。

四万十版「森は海の恋人」意見交換会は、こうした県外の漁業関係者による先進的な取組みを理解し、今後本県においても漁師さん達による山への植樹を定着させる契機とするため、7月25日の「四万十川の日」に四万十川河口沿岸部の漁業関係者の方々が集まって、四万十川とクジラの関わりや森と川と海のつながりについて考えていこうという行事です。

当日は、森と川と海のつながりを科学的に研究、実証されている北海道大学水産学部、松永勝彦教授の「森と川と海のつながり」と題した基調講演や、畠山四万十大使の「漁師が山に木を植える理由」と題した先進取組み事例の発表が行われます。

また、会の後半には、松永教授と畠山大使のお二人に、地元の(社)高知県森と緑の会の坂本耕平さんや砂浜美術館の水野聖子さん、入野漁業協同組合の澳本健也さんを交えた意見交換会が行われます。会場は、大方町入野のふるさと総合センター、開始時間は午後1時30分となっています。

なお、秋には、この意見交換会に参加いただいた四万十川河口沿岸部の漁業関係者の方々を中心に、四万十川流域への植樹活動も予定しています。

○ 基調講演 (13:40~14:30)

北海道大学水産学部教授 松永勝彦さん
—森と川と海のつながり—

○ 取組み事例発表 (14:30~15:20)

「牡蠣の森を慕う会」代表 畠山重篤さん
—漁師が山に木を植える理由—

○ 意見交換会

北海道大学水産学部教授	松永勝彦さん
「牡蠣の森を慕う会」代表	畠山重篤さん
(社)高知県森と緑の会事務局長	坂本耕平さん
砂浜美術館事務局長	水野聖子さん
入野漁業協同組合参事	澳本健也さん

トピックス

○四万十川歩行者天国(仮称)

8月14日(月)の西土佐村口屋内ふるさと祭りに合わせ、口屋内沈下橋を歩行者に開放します。

次回(8月10日発信)は『こどもを川にもどす提言』を予定